

# かんからまち & 長唄 with 庭園華道 in 松ヶ岡

平成 27 年掛川大祭。約70年ぶりに県指定無形民俗文化財「獅子舞かんからまち」が松ヶ岡で舞いを披露します。

引き続き、杵屋勝彦師匠による長唄のご披露もあります。  
また、庭園華道で知られる戸塚鐘山さんが、松ヶ岡のお庭を素敵な空間に演出します。

日 時：平成27年10月11日(日)

12:30～13:00…かんからまち

13:00～13:30…長唄

会 場：松ヶ岡(旧山崎家住宅)

掛川市南西郷 838 番(十王町)

その他：当日は、10:00～15:00まで臨時一般公開します。



○「かんからまち」とは

二頭の雄獅子と一頭の雌獅子の舞いで、荘厳な舞曲にあわせて勇壮な舞いが演じられる。400年ほど前、掛川城を築城した今川家の重臣・朝比奈備中守が牛頭天王社(ごずてんのうしゃ・後の龍尾神社)に獅子頭を供え、舞を奉納したのがはじまりといわれている。

舞は、道中を歩くときの「道行」、躍動的な太鼓と共に舞い込み、3頭で向かい合って舞場を踏み固める「三角舞」、2頭の雄獅子「龍」「尾」が1頭の雌獅子「山」を奪い合う「本舞」、三角舞のリズムで舞場を出る「戻り三角舞」の4部から成る。

3年に1度の大祭では、「仁藤の大獅子」の壮麗な舞をはじめ、大名行列を模した「奴道中」、「獅子舞かんからまち」が三大余興として繰り広げられ、大祭を華やかに彩る。

「かんからまち」は由緒ある獅子舞で、掛川城御殿の中でもわらじを履いたままで舞うことが許された格式の高い舞い。他のどんな地位の人が懇願しても、絶対に舞わなかった。かつては、「かんからまち」は「松ヶ岡」でも舞われていたらしく、山崎家の現当主が小さい頃に舞っていたと記憶している。今回、「かんからまち」が松ヶ岡で舞われると、約70年ぶりとなる。

主 催：松ヶ岡プロジェクト推進委員会  
事務局：掛川市教育委員会  
社会教育課 21-1158